

逕遐芍藥花、醜蕪葉、隨攀迸落受輕紗、蓄離綠刺障羅衣、柳陌青絲遮畫眉、環坐各相猜、他妓亦尋來、試
傾雙袖口、先出一枝梅、千葉不同樣、百花是異香、樓中皆艷灼、院裡悉芬芳、菲散蓄慮競、風流巧咲便娟
矜數籌、鬪罷不求勳、績顯華筵、但使前人羞、

和野柱史觀鬪百草簡朋執之作一首

巨識人

聞道春色遍園中、閨裡春情不可窮、結伴共言鬪百草、競來先就一枝叢、尋花萬貴攀桃李、摘葉千廻繞、
薔薇或取倒葩、或尖萼、人人相隱不相知、彼心猜我、我猜彼、竊遣小兒行密窺、團欒七八者、重樓粉窓下、
百香懷裡薰數樣、掌中把、擁裙集綺筵、此首雜華鈿、相催猶未出、相讓不肯先、鬪百草鬪千花、矜有嗤無
意、遞奢初出紅莖敵紫葉、後將一藥爭兩葩、證者一判籌初負、奇名未盡日、又斜、勝人不聽後朝報、脫贈
羅衣耻向家、

〔拾遺和歌集九〕草合し侍ける所に

惠慶法師

たねなくてなき物くさはおいにけりまくてふ事はあらしとぞ思

〔八代集抄十七〕草合 色々の草を合せて、類なき草を勝とする戯也、鬪草鬪花など唐にもせ

し事也、

〔後拾遺和歌集二十〕人の草あはせしけるに、朝がほか、み草などあはせけるに、か、み草からけ
れば、
よみ人まらす

まけがたのはづかしげなるあさがほを鏡草にもみせてけるかな

〔京華集〕本朝風俗、七月七日、例鬪草花、如楚人重五有百草之戲矣、丙申之載、吉田民部藤公、見惠仙翁
花并茶、余時在唯稱院、累七諱席、書誦夜禪、懶困不堪耳、而花以打香供、茶以降睡魔、感幸々々、仍題小
詩以謝惠意云、

〔玉山遺稿四〕題美人圖十八首